



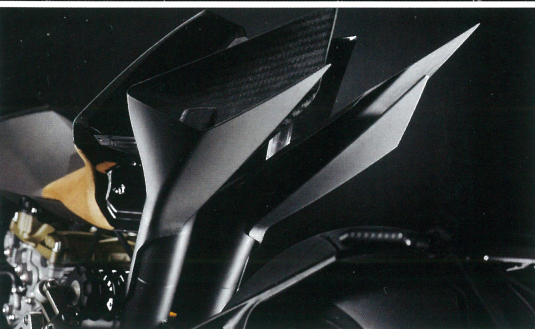
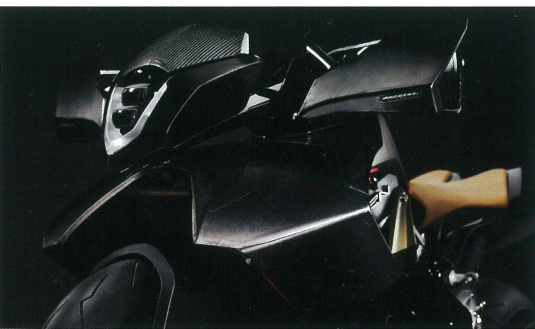
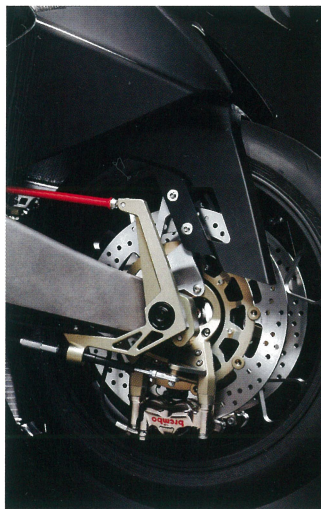
エンジンはドゥカティの1299・Lツイン

マグネシウム製のオメガプレートが抱くエンジンは、1299パニガレの1285ccのL型2気筒“スーパークアドロ”。205psを発揮し、電子デバイスも装備する



エイドリアン・モートン（MVアグスタのチーフデザイナー）のイメージスケッチをきっかけに、ハブセンターステア機構のバイクの可能性を、機能とデザインの両面でとことん追求している

常識、既成概念を超えた新たな芸術は2288万円！



1.突き出した“頭部”は、まさにエイリアン 2.マフラーに装備されるUDカーボン製のヒートプロテクターはマッドガードの役目も併せ持つ 3.ヴァイルス専用にデザインされたROTOBOX社のカーボンホイール。スポーク部の厚みはわずか5mm! 4.独自のハブセンターステアは、ハンドルの両端とハブ内のステア機構を特殊なフルードを密閉したスチールケーブルで連結する

地球外生物襲来

ハブセンターステアリングとリンク機構に心酔する鬼才が
素材と造形にもとことん踏み込んで生み出した異形のマシン「エイリアン」
“次世代”という表現ではまったく足りない、未知のバイクが降臨した

PHOTO/VYRUS TEXT/K.ITOH
取材協力/モトコルセ TEL046-220-1711
<https://www.motocorse.jp/>

Vyrus

Alien



技術と芸術のハイブリッドバイクに、新たな種が誕生

このアングル、まさに映画「エイリアン2」で登場したエイリアンの女王を彷彿させるが、こんな異形のマシンを作るのはヴァイルスを率いる稀代のエンジニア、アスカニオ・

後スイングアームが伸びるヴァイルスの真骨頂であるハブセンターステアで、ショックユニットはオーリンズ製TX40を横置きした、同社の986M2と同機構のプッシュロッド・ツイーンピボット方式。しかもハンドルとハブのステア機構を繋ぐのは、既存のリンク式やクランク状のアームではなく、HWS

S（油圧ワイヤードステアリングシステム）と呼ばれるナノ粒子の特殊な流体を密封したスチールケーブルを用いた、まったくの新機軸だ。

また、オメガプレートや前後スイングアームをはじめ、ステッププレートやペグ類など、従来ならアルミで製作される多くのパーツや、さらにはエンジン上部のボディ（シートの前のニードリッブ部？）までがマグネシウム合金で作られる。

そしてライトのハウジングやハンドルガード、シートカウルやマフラーのヒートガードなど、外

骨格を思わせるパーツは、UDカーボン（ユニディクショナルカーボン）と呼ばれる引っ張り方向の強度に大きく優れた、単一方向のみに繊維を並べて形成した最新製法のドライカーボンだ。

スタイルもメカニズムも既存のバイクの領域を超える存在が、地上に降り立ち、走り出そうとしている。

1

2